

中国の都市化の進展にともなう 農村の変化についての臨床環境学的考察

名古屋大学大学院環境学研究科	高野 雅夫
名古屋大学大学院環境学研究科	李 全鵬
名古屋大学大学院環境学研究科	劉 晨
名古屋大学大学院環境学研究科	黒田 由彦
名古屋大学大学院環境学研究科	林 良嗣

Clinical environmental study on the change in rural communities in
China following the intensive urbanization

Masao TAKANO

Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University

Quanpeng LI

Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University

Chen LIU

Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University

Yoshihiko KURODA

Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University

Yoshitsugu HAYASHI

Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University

Abstract:

The rural area in China has been under rapid and entire change following intensive urbanization. The inherent institution of land tenure has great effect on the progress of urbanization, in which large area of agricultural land converted to urban land use.

著者連絡先 高野 雅夫
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
D2-1(510)名古屋大学大学院環境学研究
科
E-mail: masao@nagoya-u.jp

People have migrated from poor villages to suburban villages as well as from suburban villages to urban area. We discuss some basic concepts of the treatment to the change in terms of clinical

environmental studies.

Keywords: *Urbanization, China, Migration, Land use change*

1. はじめに

私たちは、2010、2011年度の2年間にわたって上海を中心に揚子江右岸、河南地方の都市および農村における都市化の現場を、ORTとしてさまざまな分野の博士課程の学生たちとともに訪問調査した。そこで目にしたのは、日本で言えば高度経済成長とバブル経済が同時にやってきたような、社会の急激で根本的な変化であった。上海市から南京市に至る江南地域は、かつては水郷地帯であり、中国有数の米どころであった。今ではこの地域はグローバルシティ上海を核とするグローバル経済の拠点である。

江南地方の「純粋な」都市化の現場を目の当たりにして、私たちは、都市化とは、ひとつの地域がグローバル経済の枠組みの中に組み込まれていくことだ、という認識を持った。組み込まれるという意味は、グローバル経済の便利のために、土地利用が大規模に変化すること、人口が移動すること、さらに人々の価値観が変化することととらえることができるだろう。本報告では、その実態と持続可能性の診断さらに今後の処方箋について議論する。

2. 中国の都市化にともなう農村の変化の特徴

これらの調査の中でまず、中国独特の土地制度に基づく独自の都市化のメカニズムがあることが分かった。中国では地方都市が土地の所有者であり、市が都市計画を行い、それに従って農民を移転させ、土地を造成する。その土地を外資と結びついたデベロッパーに利用権を売却して、住宅地や商業用地、工業用地として開発させる。工業用地には外資系企業が立地する。土地の売却益はまるまる市の財政収入となり、その潤沢な資金を活用してさらに郊外に鉄道や道路などのイン

フラを整備して、都市が拡大していく。

都市化の波は農村にも広がっている。中国では社会主義新農村建設として、農村においても経済的に豊かになるための政策が強力に進められている。その中で、特に江南地方においては、離農を積極的に行うための新農村建設が典型的に見られる。すなわち、自治単位である村や区内の集落（自然村）を一つの住宅団地に集中させるべく、人々を移住させる。元の土地は造成して工業団地や商業地、市街地とする。農民はそれまで持っていた土地の面積に応じて団地内の住宅を配分され、一夜にして資産家となり、若者は新しく建設された工場や商業施設で働くようになる。

そのような農村開発が進む中で、農村間にも格差が生まれている。都市近郊農村では、都市需要に対応した園芸作物や家畜の生産、上海蟹をはじめとする魚介類の養殖、農村工業の進展によって豊かになっている。一方、都市から離れた農山村とは収入格差が広がっている。

その結果、近郊農村の若者は都市へ、貧しい農村の若者は都市近郊農村へ、という玉突き的な人口移動が生じていることがわかった。

さらに都市化が物質循環へ与える影響を調べると、人々の食生活やトイレの様式などライフスタイルの変化や、化学肥料を多用する農法への変化、自動車が増えることによる窒素酸化物の放出などによって、地域の窒素循環が大きく変化していることが分かった。

3. 中国の都市化にともなう農村の変化への処方箋

中国の江南地方で起きていることのひとつの特徴は、新農村建設という名のもとに行われている廃村運動である。集落（自然村）は、その土地の風土にあわせて成り立っている。ちょっとした地形の高まり、水路の

配置、水の流れ、日当たり、風の通り道、それら微細な地形や気候に寄り添うことで細やかに変化する生態系。その中で人間も生きてきた。それが、水路は埋め立てられ、コンクリートとアスファルトで固められ、公園や街路に園芸種である植物を植える。しかし、その土地の風土から人間が切り離された時、人間の魂は劣化せざるを得ない。そうして生きづらくなった人間の一時避難先でありリハビリの地がいなかであろう。いなかには都市住民の心のセーフティネットであるともいえる。日本、韓国、台湾よりも遅くに経済発展のはじまった中国沿岸部は、あっという間にわれわれを追い越していった。しかし、一人っ子政策の成功の帰結として、もう十数年もすると、人口は減少に転ずる。中国社会はまたあっという間に縮小局面に入っていく。現段階の中国社会において、成長そのものを引き止めるような処方箋は受け入れられないだろう。しかし、やがてやってくる縮小期に混乱することなくスムーズに移行できるような成長のあり方を、現時点から考えておく必要があるだろう。そのためには野放しの、規制なき成長ではなく、コントロールされた成長が必要であると考えられる。